

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
78

2021 長月・神無月

特集／開祖生誕110年を記念して（第二部）

― 少林寺拳法の創始、金剛禅の開基、そして仲間づくりへ



特集 開祖生誕110年を記念して(第二部)

——少林寺拳法の創始、金剛禪の開基、そして仲間づくりへ

金剛禪開祖 宗道臣 生誕110年の節目の年に際して、三部作で開祖の特集を組んでいます。そこで今号は、前号(幼少期)にひきつづき、第二部として、多度津に居を構えた宗道臣が、どんな志をもって少林寺拳法を創始し、宗教法人としての組織体を確立し、その運動の輪を世に広めようとしたのかを追っていきます。

少林寺拳法の創始

満州(現在の中国東北部)で敗戦を迎えた中野理男(後の宗道臣、以下開祖と呼ぶ)。極限の状況下における人間の赤裸々な醜い姿を目の当たりにし、命懸けの脱出を図った末、1946(昭21)年、祖国日本への帰国を果たします。

しかし、夢にまで見た故国の土を踏



1950年ごろの開祖

んだものの、開祖が見たものは、戦火によって荒れ果てた国土であり、天井知らずのインフレや住宅難、生活苦でありました。また、戦勝国の人間が幅を利かせ、腕力の強い者が弱者から金品や食料を搾取し、一般の人はそれを見て見ぬふりをしている。道義も人情も見失い、日本人同士が互いにいがみ合い、不正と暴力が横行する、弱肉強食の修羅場であつたのです。

開祖は、それは日本人が「精神的なよりどころをなくしていることが、その最大の原因である」と考え、「今こそ私学校を開き、道を説くという夢を実現する天の時だ。明日の日本を背負って立つことのできる青少年を育成することに、残りの人生を捧げよう」と決心します。

では、その精神的なよりどころとな

るべき教えとは何か。開祖は、いろいろの思想や宗教遍歴を経てきた体験から、釈尊の正しい教え——それは、最も理性的であり、人間性の深さを究明して、物心両面の安らぎが得られる教え——をにおいては他にないと考えていました。しかし、戦後の荒廃した日本の社会情勢の中では、いくら道を説き、人づくりの必要性を訴えてみても、だれも相手にしてくれません。釈尊の正しい教えを広めるために、どんな手段をとればいいのか、ハタと行きづまってしまったのです。

あれこれ思い悩んでいたころ、ある夜開祖は達磨の夢を見ます。達磨が開祖に向かって何かを語りかけながらスタスタと歩み去っていく。「待って……」と叫ぶ自分の声で目を覚ました開祖はしばらく考え、それは「私につ

いてこい」という達磨の啓示に違いないと確信します。

達磨大師は、苦難の旅の末、インドから中国にわたり、釈尊の正しい教えを伝えた禅宗の祖です。また、達磨



中国嵩山少林寺白衣殿にある壁画

は、僧侶の身心強化のための鍛錬法も創案したといわれています。達磨が留錫した嵩山少林寺の白衣殿には、中国僧とインド僧が、二人ずつ組みになって、真剣ななかにも楽しそうに技をかけ合っている姿が生き活きと描かれている壁画が残っています。かつて開祖は、先師文太宗老師と嵩山少林寺を訪ねた時にこの壁画を見て、相手を倒し、相手に勝つことを目的とするものではなく、己に克ち、体と心を整えて、自他ともに上達を図ろうとしている姿であると、インスピレーションを受けていました。

「そうだ。達磨についていこう。達磨の伝えた行法をこの日本で復元再興させよう」。

ほどなく開祖は、かねて入手していた多度津の地に自宅を完成させ、六畳間の半畳分に祭壇を設え、五畳半道場として開放し、自ら名付けた「少林寺拳法」を教え始めたのです。1947年10月25日のことでした。



少林寺拳法の草創期からある「黙禪」と書かれた達磨絵の額

インドから渡来した達磨が、嵩山少林寺の僧侶たちに禪の教えとともに伝えた鍛錬法は、坐禅で弱化する僧侶の肉体を錬磨するために、経脈脈術を基礎にした合理的な整体の方法と、拳、脚の用法を定めたものと言われています。この禅僧の鍛錬法が武術としての形を整えていくのは大分後のことになりましたが、武器を持たない僧侶にとつての、戦乱の世における理想的護身法であったと伝えられています。

開祖は達磨が天竺那羅之拵を伝えた後に説明しています。自身が学んだ武術、白衣殿の壁画などから着想を得ていますが、開祖の体系化した少林寺拳法の技にも禅僧の鍛錬法としての要素が多分に含まれているからだと思われます。

宗教法人「黄正教団」の設立

少林寺拳法が創始された翌年、1948年10月には、「日本北派少林寺拳法会」が設立されます。それは、開祖が心に抱いた志を実現するための組織づくりでした。

また、同年12月には、宗教団体「黄正教団」を設立、道場を「本部道院」と名付けます。開祖が宗教団体を設立したのは、達磨の夢をヒントに少林寺拳法を創始したことからも自然の流れでした。

「黄正教団」の名前は、中国の慈善団

体「紅正字会」にちなみ、「紅正」に対して「黄正」を採用したのですが、開祖は、少林寺拳法の組織化を思案しているときに、これまでの武道のイメージとはまるで違う、宗教的雰囲気を持った「道院」という名前を用いることにしたことは、門信徒として思いを馳せるべきことでしょう。

また、組織化にあたり、期生制度や階級制度等を整備することで、組織の



1958年、拳士の手をとって指導する開祖

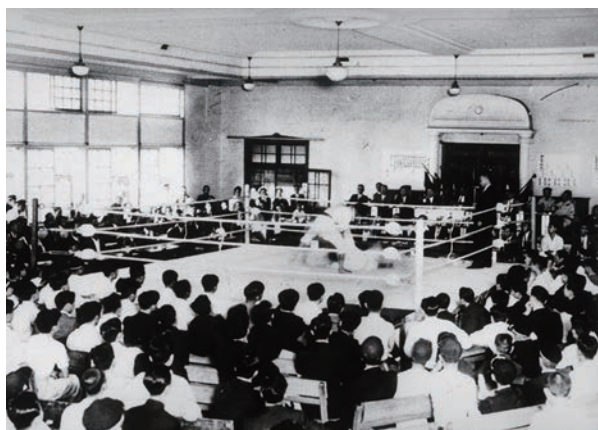
G H Q（連合国軍総司令部）は、神道指令により国家と神社神道との分離を命じ、ついで宗教法人令を制定して、届出による宗教法人の設立を認めました。これによって、新興宗教ブームが起りました。

その後、1951年4月3日に、現行の宗教法人法となる新たな「宗教法人法」が成立、交付、即日施行されます。これは、怪しげな新興宗教が自然淘汰されていく中で、既成の教団や、戦後の混乱期を生き延びた宗教団体を保護するために生まれたものでした。

これに対して開祖は、直ちに宗教法人法に基づく規則を整え、登録手続きを済ませます。同年12月、宗教法人「金剛禅総本山少林寺」として、香川県知事の認証を受けたのでした。



1958年、学科指導のようす



1952年、第三回少林寺拳法演武大会

一員であるという自覚と、修行を続ける目標が示されたことで、拳士（公員）も増加はじめていきました。
ところが、拳士が順調に増加することとは何より喜ばしいことでしたが、増えたら増えたで、別の懸念も生じてきたのです。戦後の占領軍による統治下では、日本の軍国主義の復活が恐れられ、武と名のつくものは一切禁止されていました。少ない人数なら目立たなくとも、大勢になると目立ってしまい、占領軍の目に止まると禁止させられる恐れがあったのです。

そこで1949年12月、宗教法人の手続きをとり、「宗教法人黄正教団」として登録を完了させます。すでに宗教団体としての運営を実行していたの

で手続きは簡単でした。その後、占領軍の担当者が視察に来た際、鎮魂行を見せ、道場にリングを作ってボクシングのようにやったところ、担当者は喜んだので帰ったようです。宗教としての活動が確認できたことと、ボクシングのように見せたことで、武道ではないと判断したのでしょう。しかし、ここで誤解してはならないことは、武道としての活動を続けるために宗教法人として登録したのではないということです。あくまでも、日本人の精神的なよりどころを自尊の正しい教えに求め、人間の心の改造を図っていくためには、宗教団体としての活動や組織体が適していたということです。

仲間づくり

金剛禪の門信徒であれば「人づくりによる国づくり」という金剛禪の目的はご存知でしょうが、開祖はこの言葉を発するとき「仲間づくり」という言葉を付け加えています。開祖の思いは「人づくり、仲間づくりによる国づくり」なのです。

開祖は中国から脱出する途中や、帰国後の日本において「力が無ければ正義を貫き通せない」ことを、身をもって実感していました。この「力」とは、まず自己確立を目指した修行により、

自分自身が力をつけることです。さらに、より多くの仲間と同じ目的に向かって力を合わせることです。開祖は、「仲間の団結こそが力」と確信していました。当時、開祖は「戦勝国の外国人がわが物顔で、日本人が困っている。その人たちを助けたいが、わし一人がやってもどうしようもない」「正直者が馬鹿をみんな国を一緒につくらんか。わしのそういう仕事を手伝わんか」「お互い、苦しい時、困った時に、本当に力になり合える仲間をつくらんか」と多くの弟子に呼びかけています。道院に多くの人が集えるように工夫し、集まった者たちが互いに刺激を与え人として成長し、いざというときに



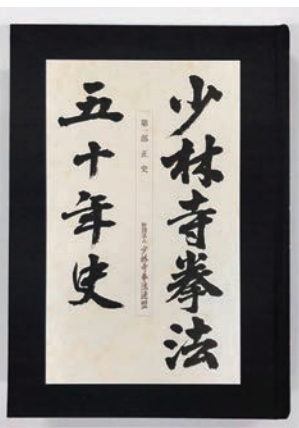
1951年、六十畳道場でのぜんざい会食

は一致団結する。これこそが金剛禪運動の礎でし、各地域における日日の道院活動の意義なのです。
開祖の志とその志を実現するため、なぜ宗教団体を設立し、法人化を図ったのか。どんな思いを込めて「道院」と名付けたのか。道院長はもちろん、門信徒にとっても重要なところであり、そこに信念と誇りをもちたいものです。

（次号につづく）



開祖の待気構え（1950年代初期）



寄付金額3,000円以上の希望者に、返礼品として少林寺拳法五十年史（正史のみ）を贈呈させていただきます。（在庫限り）
／問合せ先…一般財団法人少林寺拳法連盟

金剛禪運動

君らは経済不況というのを本当の意味では知らんだろうが、日本の奥の奥の一部では戦争でもしたらどうだという空気がまた流れている。経済が悪くなれば、企業は当然縮小になり、そのいちばん困つてるところから首切りが始まる。それで手っ取り早い解決法として戦争でもしたらとなる。笑い事言つてるんじゃない、現にそうやつて日本は戦争に入つていった。

ミシンは1台作れば少なくとも10年、20年は働いてくれます。トラックだつてそう。でも戦場で使う戦車やジープは一日、一週間でバーン。つまり戦争は最大の消費なんですね。物を売り儲けるには戦争をすればいい、人殺しをすればいい。そんな驚くべきことを本気で願い計画し実行しようとする連中がこの世の中にはいるのです。過激派の演説みたいなこと言うところけど、私は本気で今言つたように現在を認識しています。しかもさらに現実を見つめて言えば、資本主義も共産主義も人類の求める理



開祖語録 ダイジェスト

1977年8月
指導者講習会



想とはほど遠い、このこともすでにわかつてしまった。ならば、そんな中でなすべきことは何だろう。一人でも多く、我々人間の考え方を変えるしかないじゃないか。

平和で公正な社会、そんな人類社会の建設はあまりに遠いにせよ、「他の犠牲において自己の幸福を得ようとする心を捨て去り、相互の信頼と愛情を深め、理解し合い助け合い、手を握り合つて理想の楽土を確立すべく個々の人間が己の人格を高める努力をする」——ことを心に留め、日々生きる際の基準にする。大変でも、それぐらいはできるのではなからうかと。そして、そのように私たち一人ひとりの考え方を変えていこうとするのが金剛禪運動なのです。

「人、人、人、すべては人の質にある」。どれほど時間がかかろうと、どれほど現実味の無い運動であろうと、権力に就く連中の質を全部変えていくことによって、世の中をよくすることが必ずできると私は信じている。



浜名湖西道院
湖西新居スポーツ少年団支部長
山本直也

急いで答えを求めない

楽しいことはみんな大好き！ 絵本の読み聞かせは月に一度の恒例行事になっています。

私が心掛けていることは「感情の共有」です。喜びや悲しみ、あるいは怒りといった感情がストレートに表現されている絵本は、目で見てすぐに理解できる特性があり、子どもも大人も共に感情表現を学ぶことができます。このほんの少しのスパイスが、目には見えない繋がり・連帯感をつくっていくのだと感じています。

何が変わるの？ どんな効果が？ 急いで答えを求めないでください。まずは自分自身に変化が起こり、そしてある日「ハッ！」と気付かされます。すべての答えは子どもの中に、そして鏡となって自分の中に、思考が変化し行動が変わります。私の場合は生き方が大きく変わりました。図書館で絵本を選ぶわくわく時間が心にゆとりを与えてくれます。「百聞は一見に如かず」です。

最近読んだお薦めの絵本

◎あめだま

作：ペク・ヒナ
訳：長谷川義史
出版社：ブロンズ新社



公園でひとりビー玉で遊ぶ少年が新しいビー玉を買いにお店へ。そこで見つけた不思議なあめだま、一つ口にすると…。想像を超える展開からラストは心がほっこりする1冊です。1歩踏み出す勇気を分かりやすく子どもたちに伝えられる絵本です。

開祖の体験から生まれた金剛禪

開祖は敗戦後の満州での体験から、「人、人、すべては人の質にある」ことに気づかれました。そして、日本への帰国後、その人の質を向上させる新しい道として、少林寺拳法を主行とする金剛禪を創始されたのです。その「人の質」は、人間の霊性につながります。

表題にもあるように、金剛禪の教えは開祖の実体験から生まれています。例えば10歳頃におきた乳母車事件です。小学校六年生の村の有力者の息子が、幼い弟を乳母車に乗せてお守りをしながら仲間と遊んでいたところへ、理男少年（少年時代の開祖）が通りすがり、いきなり乳母車を道ばたのみぞに落としたので、乗っていた子供が手首にけがをしたと、村の有力者が血相を変えてどなりこんできたのです。理男少年にとっては、まったくいわれないぬれぎぬであつたので、翌朝有力者の息子を家の前によびだし、薪の棒をかざしながら「本当のことをいえ」と叫びながら打ちかかっていったのです。結局、おびえた有力者の息子は泣きながら許しを乞い、彼の親の前で真実を白状したのです。

この事件を契機に、理男は「自分がそうした

い」と思い、自分がそうするように努力すれば、自分は必ずかえられるものであることを、私は理屈でなく、体験を通して、このときはじめて自分で発見した」と述べています。開祖は「この事件を契機として、私は自分が生まれ変わったことを自覚している」とも言っています。

また、開祖は教範の参考書目に友松円諦著の法句経講義をあげています。友松は昭和の初期にNHKのラジオ講座で、法句経を講義したときに「自己心為師 不随他為師 自己為師者 獲真智人法」を、「己れこそ己れの寄辺、己れを借きて誰に寄辺ぞ、よく整えし己れこそ、洵、得難き寄辺をぞ得ん」と訳して解説しました。私たちはこの法句経の一節を聖句第一として毎日唱和しているのです。

さらに、新しい教範の冒頭には、フレデリック・バイルズ（米国人 世界的宗教学者）の『ある人たちは、生涯を自分の思いどおりに生きている。他の人たちは、生涯がおのれを思いどおりにするにまかせている。どこに違いがあるのであろうか？』との言葉を載せています。開祖はこれが私の帰依する釈尊の教え

であり、少林寺拳法の自己確立の道でもあるとも言っています。

乳母車事件で感じた「主体性を持つて生きる」ということを、開祖は釈尊の教えやバイルズ博士の言葉の中にも見出されました。そしてそれが、「自己確立」の教えに帰結するので

す。すべての生物は、その命の尊さでは等しいとはいえ、人間は考える働きをもっていることが、他の生物とは違います。生きていることへの意識、自覚を持つていることに価値があり、自らの生き方を自らが決定できる存在なのです。

終わりに開祖の言葉を。

信仰の確立、ダーマを信じるというのは、仏像を拜むことではないのです。自分がダーマの分霊をもつ素晴らしい人間だということが理解されたら、すでに信仰が確立したのだ。そうしたら使命感の自覚、自分がなにをしたらよいか、なにをしなければならぬか、これが使命感である。

（1969年10月 指導者講習会）

行の門宗

このコーナーでは易筋行が人づくりの手段たりうるために、調和の思想やダーマ信仰、三徳(護身練胆、精神修養、健康増進)、修練方法、身心の用い方等を切り口として、日々の修練と日常生活がリンクするように、易筋行とは何かを考察していきます。今回は健康と幸福という観点から掘り下げていきます。



健康の定義

少林寺拳法の三徳の一つに健康増進があります。では、その健康とは何でしょうか。1947年に採択された、世界保健機関(WHO)のWHO憲章前文において「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にある」と健康を定義しています。

文中の「満たされた状態」という言葉は、最近「ウェルビーイング(well-being)」とも言われ、「幸福」と訳されることもあります。健康と幸福は必ずしもイコールではありませんが、幸福に健康を欠かすことはできませんし、健康に幸福を欠かすこともできません。

各要素を満たす

前述の定義でいくと、健康に必要なものは、ウェルビーイング、つまり肉体的要素、精神的要素、社会的要素のすべてを満たすことです。私たちの修行は、拳禅一如の修行であることから、肉体的要素と精神的要素を高めることに直結していることは間違いない



さそうです。では社会的要素とは何でしょうか。それは人と人とのつながり、人間関係の豊かさを言います。修練においては組手主体の修練により、技法だけでなく、人と人との関係性、目には見えない人間関係における心の持ちようなどが学べることから、社会的要素についても高められます。つまり、修行によりウェルビーイングを高められると言えます。

ウェルビーイングが下がる状況

それでは実際のところ、健康や幸福に関わるこれらの要素が修練によって確実に高まっていると言えるでしょうか。無理な動きや理に合わない動きをして怪我をしてしまう場合には身体的要素が、技法がうまくいかず相手のせいにしてしまう場合や相手の心無い言葉により自信を無くしてしまう場合には精神的要素が、相對演練を繰り返す中で互いの意見が合わないことで相手との関係が悪くなる場合には社会的要素が、それぞれ満たされなくなります。

特に形を覚えることを中心に行われる修練においてその傾向が見られます。それは法形の形や手順を確認するなど、体よりも頭を多く使う場面です。たとえば、変化が必要な場面においても元の法形を優先して無理な反撃を行う、また逆技で掛け手の細部の形に囚われるあまり体全体のバランスが崩れたまま行う状況はないでしょうか。さらに人によって捕り方が異なる法形においては、自分のやり方を強要したり、相手のやり方を否定したりする場面も目にします。これらの状況はいずれもウェルビーイングを下げてしまうことになり

なります。

ウェルビーイングを高める

少林寺拳法は人づくりのための行です。自己を確立しながら自分も他人も幸福になるための行にしなければなりません。肉体的要素、精神的要素、社会的要素のすべてを満たしてウェルビーイングを高められるよう、修行において大事にすべきことは何か、もつと言え何を目的として修行するのかを問い直してみるとよいかもしれません。

(富田雅志)

DISCUSSION

さらに考察を深めるため

- 自身の修行を振り返り、具体的にどのような場面でそれぞれの要素(肉体的要素、精神的要素、社会的要素)が高まっているかを挙げてみましょう。
- あなたが修行をする目的は何でしょうか。またなぜその目的を成し遂げたいのかを1分程度で他の人に話してみましょう。
- 上記の目的を達成するために修練において何を心掛ければ良いでしょうか。3つ以上挙げてみましょう。

道院長

元気の素

兵庫県・播州志方道院
道院長 松野 剛 (44歳)

道院長になったきっかけ

自分が道院長になることを意識したのは、武専兵庫地区に入学したことが大きなきっかけです。そこでの経験は、私の人生に多大な影響を与えてくれました。老若男女、様々な仲間と交流をする中で触れることができ、拳士や各講師の先生方の考え方や技術は、どれをとっても刺激的で、非常に有益でした。

また、私は北田政和元道院長と、幼少期にお世話になった堀尾秀治元道院長という、二人の師が存在します。その二人を目標として修行しているのが、自然と道院長を目指すようになっていました。

三つの軸

道院長になったばかりのころ、指導方針について非常に悩みました。先輩の先生方にお話を聞き、色々なことを学びながら、最終的に播州志方道院では次の三つの軸を作りました。一、拳士の主体性(例…決めごと等が必要になった場合は、年代に関係なく拳士自らが考え決めてい

く。道院長は、アドバイスはするが決めず、拳士が決めた事柄を尊重する。)二、小さな成功体験(例…小さな変化を心の底から褒める。子供たちには、上辺だけの誉め言葉はすぐ見抜かれます。)三、メリハリ(例…練習中は真剣に取り組み、休み時間は拳士たちと一緒に遊んだり、お話をしたりする。)この三つを軸に、指導をすることを心掛けています。

道院長の幸せ

道院長としての幸せを感じるのは、拳士の成長を目の当たりにできることや、ゴールデンエイジの大切な時期にその成長に関わっていると実感できることです。また、保護者がそれぞれの視点で感じた拳士の成長を、私に話してくれるときに見える笑顔は、とても励みになります。拳士たちが、修練の時だけでなく、自分自身の生活に道院で学んだことを生かしているということがわかった時は、道院長冥利に尽きます。

地元貢献できる人材を

播州志方道院では、地域との交流に重点を置いています。道院は、加古川市の中でも特に少子高齢化が深刻な地域にあるため、夏祭りの夜店参加、ステージ出演、お手伝いに加え、様々な地域のイベントに参加しています。このような取り組みを積極的に行うことで、少林寺拳法が地域の活性化に役立つ存在になれば良いと考えています。イベント参加だけが交流ではありませんが、このような取り組みを行っている、武専で仲良くなった仲間たちが、地域の垣根を超えて手伝ってくれることがあり、拳士間の仲

間意識の高まりとともに、門信徒の地域愛の育成につながり、将来、地元根強く貢献できる人材に育ってほしいと願い交流を続けています。

想いと共に行動する

修練場所の確保は、全国的にとっても難しい課題だと思っています。我々の専有道場は、約20畳の広さです。近年、拳士が増えたことで修練場所が手狭になり、新たな場所の確保が必要となりました。約二年前から交渉を始め、最近、契約を結びました。途中で諦めかけましたが、費用面、運営面等、色々考えた結果、「想いと共に行動する。」そう自分に言い聞かせ奮起いたしました。あとは行動あるのみでした。

道院長を目指す全国の拳士へ

武専や本山で行われる講習会に是非参加してください。参加すると、他の拳士や講師の先生方と交流ができ、それが非常に良い刺激になると思います。皆様が将来道院長になり、開祖の志をつなぐ存在になられるよう願っております。



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

研修会・講習会(地方)

開催報告

● 本山公認教区講習会
開催報告(派遣講師)

〔6月27日〕群馬県教区(藤井省吾)

● 教区研修会

〔5月23日〕栃木県教区

〔6月27日〕神奈川県教区

〔7月11日〕岡山県教区

● 小教区研修会

〔5月23日〕奈良桜井小教区

〔6月6日〕静岡富士小教区

〔6月16日〕静岡西部第一小教区

〔6月20日〕横浜第四小教区

● その他

〔6月26日〕埼玉行田道院設立25周年記念誌刊行 他

緑の輪袈裟

宇部恩田道院

当道院において開祖忌法要を執り行い、門信徒輪袈裟を活用しました。

僧籍を持たない門信徒に対し、儀式等の際に門信徒輪袈裟を貸し与えています。

金剛禪の教えを共に歩む

同志である証となり、道院に一体感が生まれるようで大変気に入っています。

(道院長 鈴木道臣)



宇部常盤道院

新春法会の様子です。儀式に先立ち昨年暮れに少拳士に合格した3人に允可状を授与しました。

幼稚園の年中組から修行を続けている中学1年生の仲良しで、文武両道を地で行く少年部の憧れ、模範となっている将来楽しみな3人です。

入門式などの儀式にとどまらず普段の鎮魂行の際にも「緑の輪袈裟」を着用しています。

一般部拳士として仲間入

りを果たし、何はさておいても金剛禪門信徒としての自覚が湧いたのではないのでしょうか。

(道院長 鈴木義勝)



大村三城道院

道院で5本頒布をうけ、新春法会において、前列の子たちに着用してもらいました。

子供たちから「あ、僕もしたい」「僕も、僕も」という声が上ががり、輪袈裟を着用したことで普段と違うことに新鮮味を感じながらも、法衣と輪袈裟着用の道院長と同じ様相になったことに嬉しそうにしていました。

これからの儀式等の折に

使用し、ダーマの分霊を宿した存在であることを自然と意識づけられたらと思っています。

(道院長 才津行弘)



武蔵五日市道院

新春法会の一コマです。

(道院長 高井 勉)



2021年度金剛禪総本山少林寺達磨祭の開催について

本年度の開催について下記の通りご案内いたします。
コロナ禍の影響で、やむを得ず規模を縮小します。
各都道府県教区、小教区、道院におかれましては、地域の状況に鑑み、できる範囲で企画しすめていただけるようお願いいたします。

【開催概要】

日時 2021年10月3日(日) 9:00~12:00
次第 達磨祭法要、易筋行、講演会
参加 香川県内の所属長、拳士に限る。
備考 恒例の境内での出店、来賓の招待、一般の受け入れは行いません。詳細は改めてご案内いたします。

道院認証

認証おめでとうございます。

●交代

■2021年7月1日付

大阪大正道院 田中 徳幸

●参与

■2021年7月1日付

本部道院 向田 弘之

僧階昇任者

昇任おめでとうございます。

少法師

■2021年6月6日付

石井 利直（渡良瀬道院）
澤田 一彦（東松山道院）
森本 俊美（人間藤沢道院）
伊東 一男（栃尾道院）
牧野 輝男（柏崎道院）
織平 秀一（能登七尾道院）
倉本 亘康（琴弾道院）
倉本 敏行（櫛崎道院）
大林 貢（丸亀飯野道院）
鮎川 敏彦（加世田道院）

土橋 賢二（岩手奥中山道院）
堀口 昌司（茨城那珂道院）
長谷川 浩（常総石下道院）
伊藤 宏一（埼玉飯能道院）
山口 芳幸（八王子南道院）
児玉 千尋（横浜日吉道院）
高 富師彰（小松南部道院）
中西 幸之介（小松西道院）
梅原 一幸（加賀錦城道院）
鈴木 英仁（信州宮田道院）
岩谷 裕一（沼津愛鷹道院）
高橋 宗造（静岡愛呂道院）
加藤 利彦（岡崎中部道院）
服部 哲也（愛知師勝道院）
北川 悟（近江八幡道院）
山崎 寿久（島根雲南道院）
小玉 恵三（倉敷北道院）
片山 光弘（阿南道院）

丹羽 高広（筑前下原道院）
柴田 徹（福岡竜王道院）
山田 哲朗（長崎浦上道院）
林 忠億（宮崎霧島道院）

中導師

■2021年6月1日付

細谷 雪太郎（君津道院）

■2021年7月1日付

津野 渉（高知南街道院）
松本 みどり（高知南街道院）

■2021年7月3日付

平田 雄剛（群馬前橋道院）
一瀬 仁資（さいたま桜道院）
山崎 勝朗（三軒茶屋道院）
高橋 裕美（川崎西道院）

大導師

■2021年7月4日付

安住 光平（石狩花川道院）
矢部 博文（札幌篠路道院）
北向 勉（みちのく下田道院）

お布施

心より感謝申し上げます。

布施

▷加賀かけはし道院 安田 嘉昌 30,000円
▷西陣道院 牧野 明美 10,000円
▷豊田末野原道院 服部 俊美 10,000円

▷川崎稲田道院 篠原 瑠璃音 10,000円
▷本部道院 好永 明仁 2,000円

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

白井 謙司 元尼崎西道院道院長、第128期生、大導師正範士八段、2021年5月22日逝去、満81歳
渡邊 史生 鬼北道院道院長、第218期生、大導師正範士七段、2021年7月21日逝去、満73歳

参与道院長制度のご案内

◆趣旨

本制度は、当初は、専有道場の有効活用により道院を活性化することを目的に制定されたものですが、新たに参与道院長が誕生することで、道院の長期的な安定運営が期待できます。
まだ、本制度を適用されていない道院はぜひ前向きにご検討ください。

◆2022年2月度開催 道院長資格認定研修会のご案内

会場：一次研修…各都道府県の教区にて指定（二次研修までに、半日～1日かけて行います）
二次研修…本山（2022年2月5日～6日、2日間）

願書〆切：2021年12月1日（本山必着）

該当される方がいる場合は、所属長（道院長）を通じて本山宗務課まで願書をご請求ください。

◆参考 2021年度受講者数の一覧（実績）

	5月 資格認定研修会		8月 資格認定研修会	
	受講人数	平均年齢	受講人数	平均年齢
道院設立	2人	50.5歳	2人	50.4歳
道院長交代	3人		9人	
参与道院長	8人		22人	

編集後記▶本年は、開祖 宗 道臣 生誕110年という節目の年であり、本誌では開祖の思いに立ち返る特集を組んでいる。そこで、小欄でも、開祖の思いをひとつ取り上げてみたい。▶開祖は金剛禅の内修の柱として、「鎮魂行」を定められた。ではなぜ開祖は、鎮魂行なるものを行うよう定められたのであろうか。少なくとも道院長であれば、開祖の思いにみずからの認識をぴったりと一致させたうえで、毎回必ず鎮魂行を行いたい。▶教典には難解な言葉があり、意味がよくわからない、という門信徒もあるだろう。それは、道院長が法話で補うことで、一つ一つ理解が追いついていくだろう。▶鎮魂行で目指す境地とは。それは、一般拳士も少年拳士も、身心の充実による風格と、気迫に満ちた声がうち揃うことによって、みずから感動を覚える状態になること。鎮魂行によって意識が変わり、積極的で主体性ある自己へと変わっていく。そんな、「行」へと高めていきたいものである。合掌(い)

表紙▶三野智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに「あ・うん」の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶
<https://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
 管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅

検索

あ・うん | vol. 78
 金剛禅総本山少林寺広報誌
 2021 長月・神無月

2021年9月1日発行

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<https://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：飯野貴嗣

印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌「あ・うん」追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供しております。さらに追加をご希望の方は、本山布教課にお申し出ください。

TEL.0877-33-1010

e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

群馬県教区 教区長 小嶋武志

こんな時だからこそ、門信徒の絆は強くなる

コロナ禍が全国的にはまだ治まらない中で、の本山公認教区講習会であつたため、企画の段階では参加者が集まるかどうか不安でした。最悪の場合は所属長だけでも決行しようと覚悟を決めておりました。しかし、ふたを開けてみれば50名をこえる参加者があり、嬉しさを感ずるとともに、拳士の皆さんも、皆で行じることを待ち望んでいたと肌で感じ取ることができました。特に大先輩の先生方が積極的に汗を流し易筋行に取り組み、その姿に連れられて若い拳士も気合に満ちていました。

本山教師のご指導は、学科、技術ともに新鮮な学びを得られたと思います。普段感じていた疑問が解消できたという人もいました。とても贅沢な時を過ごすことができました。今回の開催においては、緊急事態宣言解除

のタイミング、施設が利用できるかという物理的な問題など色々な苦難がありました。七転び八起き「達磨の精神」であきらめずに事をすすめることができた。今後の行事開催の企画についても同じように困難が立ちあがるかもしれないが、何事もできないことを前提とせず、あきらめずに皆で力を合わせ、乗り越えていくように努めていきたいです。

全国の門信徒の皆さん、今後もコロナ禍は避けて通れない状況が続いてしまうと思います。ともするとコミュニケーション不足に陥ってしまうかもしれません。しかし、こんな時だからこそ知恵と情熱を出し合い、仲間との絆を強め、関係者にとどまらず周囲の人々に希望と心の拠りどころを提供していきましょう。ためまぬ精進を続けていきましょう。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp



宗門の行としての少林寺拳法

修行により高められるもの

健康や幸福には肉体的要素、精神的要素、社会的要素が必要であり、これらは本来修行により高めることができるものである。しかし、技の細部に囚われたり、人によって捕り方が異なる法形において自己のやり方以外を認めなかったりする状況では、これらの要素は高まっていけない。

少林寺拳法は人づくりのための行であり、自己を確立しながら自分も他人も幸福になるための行にしなければならない。修行において大事にすべきことは何か、もっと言えば何を目的として修行するのかを自身に問うことが必要である。

→詳細は7ページ「宗門の行」へ



仁王拳 轉身蹴

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで動画をご覧いただけます。

文／富田雅志 演武者／飯野貴嗣 准範士七段、中川 純 正範士七段



金剛禅総本山少林寺のSNSも、ぜひご覧ください。

